



SUN太お楽しみ会には多くの方にお越いただきありがとうございました。おかげさまで温かい雰囲気の中、子どもたちのステキな姿を見ることが出来ました。

寒い日が続いていますが、子どもたちはかけっこをしたり砂場でままごと遊びに夢中になったりと、元気に外遊びを楽しんでいます。ままごとではかわいらしい会話のやりとりも聞かせてくれます。各クラス節分に向けた製作も行いました。それぞれいろんな表情の鬼ができあがり、こどもたちも満足そうです。節分の日会当日は、鬼は外!福は内!の元気な声が響き渡ることでしょね。

保育園生活も残りわずかとなった「らいおん組」…卒園までの時間を大切に、楽しく過ごしていきたいと思ひます。また、在園児のお子様たちも進級を控え各年齢に応じ、それぞれ無理のないよう移行の準備を進めていきたいと思ひますので、ご協力の程よろしくお願ひいたします。また、健康面でも感染症予防として、手洗い・うがいを励行し、元気に過ごしていきたいと思ひます。

節分

「ツノはどうしようかな!」「髪の毛はどうしようかな?」子どもたちのアイデアがたっぷり!ととてもすてきな鬼のお面ができあがりました。飾ってみると、お部屋はまるで鬼ヶ島!とことなく子どもたちに似たお面からは、一人ひとりの個性があふれだしています。「鬼は外!福は内!」節分の日には、元気なかけ声が響き渡ることでしょね。豆まきで、自分の中のちょっと苦手な鬼を退治し、多くの福を呼びいれるといいですね。



保育所児童保育要録の送付を実施します



小学校などに就学する保育園児童に対する「保育所児童保育要録」の作成が義務付けられ、小学校などへ送付することになりました。これは、2009年4月から施行された「保育所保育指針」に基づき、子どもの育ちを支える資料として保育園が作成するものです。対象は、今年4月に小学校などへ就学する保育園児童全員で保育園から就学先の小学校などにお渡しする予定です。

SUN 太お楽しみ会アンケートへのご協力ありがとうございました

★2025年度の実施日は2026年1月24日(土)となります★



- 3(月) 節分の日会
- 3~7 身体測定
- 7(金) 職員会議
- 7(金) お誕生日会
- 12(水) 音楽指導(幼児)
- 14(金) お別れ遠足(らいおん)
- 17(月) 体育指導(幼児)
- 17(月) 職員園内研修
- 18(火) ひな人形飾り
- 19(水) 調理保育(くま)
- 21(金) お別れ遠足[雨](らいおん)
- 22(土) 新入園児面談

※2月度避難訓練は実践訓練のため、抜き打ちでの実施となります。

3月の予定

- 1(土) 新入園児面談
- 3(月) ひなまつり(誕生)
- 3~7 身体測定
- 7(金) 職員会議
- 11(火) 体育指導(幼児)
- 14(金) バイク給食(くま・らいおん)
- 12(水) 避難訓練
- 22(土) 卒園式
- 24(月) 新クラス開始

新クラス説明会

.....
新クラスの担任紹介・クラス運営・行事・持ち物などについて説明させていただきます。
.....

- 2/19(水) 新ひよこ組
- 2/20(木) 新ぺんぎん組
- 2/25(火) 新うさぎ組
- 2/26(水) 新ぱんだ組
- 2/27(木) 新くま組
- 2/28(金) 新らいおん組

会場はホールです

時間 ひよこ組は13:30~14:30
その他は17:00~18:00

受け容れ方、叱り方

「困ったときの子育て相談室」河合隼雄・滝口俊子・古平金次郎 著 創元社 より

今の世の中では、効率よく早くできることを「よいこと」と考える傾向があつて、時間のかかることは敬遠されがちです。経済の観点からはそう言えるかもしれませんが、でも、この考え方を家庭に持ちこむと、子育ても効率よくやるのがよいということになって、お母さんたちはあせってしまいます。子育ては、効率よくとはいかないのです。

「ぐずぐず」に向き合う

夕食のしたくをはじめたとたん、子どもがぐずって泣きだした—こんな場面で、お母さんはどんなふうに考えますか? ここでお料理の手を止めて子どもに向き合うと、「決まった時間に食事が間にあわなくなる」「食事が遅れると入浴や就寝の時間もずれこんでしまう」などと、心配したり悩んだりするかもしれません。また、「やっと子どもを落ち着かせても、『おなかがいっぱい』と言われたら、食事の用意ができていなくて二度目のパニックになってしまう」と先のことまで心配するかもしれません。子どもの側には、今、お母さんに向き合ってもらいたいという思いがあります。

こんなときには向き合うことを優先して、食事は簡



パターン化したやりとりを崩す

今度は叱り方について考えてみましょう。

たとえば、「遊んだあとはオモチャをかたづけなさい」と毎日毎日叫んでいるけれども、ちっとも言うことを聞かない、といったご相談が寄せられます。社会生活のマナーをしつける場合、ある時期までは繰り返すことは必要です。言葉をかけるということは、言語習得からも大切なことです。でも、「お母さんが叱る→子どもは聞き流す」ということが固定化、パターン化していると感じたなら、それを崩す工夫をしなくてはなりません。今のしつけ方は「合っていない」ので、その子に合ったしつけの方法を探さなくてはなりません。パターンのままにしておく、子どもは、聞き流したり、「イヤ」と言えば結果的に親が何とかしてくれることを「学習」して、それでいいと思ひこんでしまいます。

かたづけの例で言えば、「かたづけなさい」という上からの命令ではなくて、「いっしょにかたづけよう」と楽しみましょう。幼稚園などでは、「おかたづけの曲」を決めて、「この曲が流れてきたらおかたづけ」と約束しているなどの工夫が見られます。おうちでは、自作の「おかたづけの歌」をいっしょに歌いながら整理整頓し

単なものにしたり、入浴を取りやめにしてもいいと考えてみませんか? 手作りの夕食にこだわりすぎないで、たまには簡単なものだけということがあつてもいいし、「非常事態」のために、おにぎりを冷凍しておいたり、瓶詰めなどを常備しておくというのも子育ての知恵と言えるでしょう。

お母さんは「こんな状態がいつまでつづくのかしら」とため息をつくこともあるかと思いますが、子育てにも「卒業」の時期が必ずやってきます。まわりのママ仲間がみな格闘中なので、そのことに気づきにくいのです。「卒業」に向けていくつかの段階がありますが、たとえば、この「夕食時のぐずぐず」にしても、言葉を理解する年齢になれば「今、ご飯のしたくをしているから、ちょっと待ってね」とか、「あなたのお話を聴いてあげるけれど、そのぶん、ご飯が遅れるけど待ってくれる?」と話し合うこともできます。大きくなれば、「ご飯をつくるのを手伝って」と頼むこともできます。

二歳を過ぎると、親を思いやるようになって、親に喜びをもたらしてくれます。それを楽しみに、ゆとりをもって対応しましょう。



たり、親子でかたづけ競争をしたり。おかたづけにも、ゆとりやユーモアを工夫しましょう。

パターン化を崩す方法として、子どもに相談してみるという方法があります。会話が成り立つ年齢なら、「どうしたらいいかしら?」と尋ねると、子どもは自分が尊重されていることがうれしくて、アイデアを出してくれるかもしれません。子どもが「お母さんは何とかしなくちゃいけないと思ってるんだ」と気がつくことにもつながります。そして、子どもは自分のアイデアが認められるとうれしくなつて、親に協力してくれるようになります。

「くよくよ後悔」するより「前進」を

「何度言っても聞かない」と頭に血がのぼつてくると、つい感情的になつて叱り飛ばしてしまうこともあるでしょう。これは子どもにとっては決していいことではありませんが、お母さんにとっては「感情の発散」という意味で役に立つかもしれません。でも、「また感情的になつてしまった」と後悔して落ち込むなら、発散の価値もなくなってしまいます。こうした経験を積み重ねることによって、子育ては洗練されていくのです。